

第2章 現状と課題

1 区の文化資源

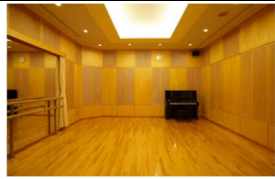
目黒区には美術館や文化施設、文化財が存在するだけでなく、イベントや団体の活動が行われており、様々な方法によって文化資源に触れることができます。

(1) 区有の主な文化施設の概要

①目黒区美術館

名 称	目黒区美術館
所 在 地	目黒区目黒二丁目4番36号（目黒区民センター内）
設 立	1987年
開館時間	10：00～18：00（入館は17：30まで）
休 館 日	月曜日（祝・休日の場合は翌日）、年末年始（12月28日～1月4日）及び展示替期間
管 理 手 法	指定管理
管 理 者	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団
管 理 期 間	2024年4月1日から2029年3月31日（5年間）
設 備	展示室、区民ギャラリー、ワークショップ室、ラウンジ
外 観	   

②めぐろパーシモンホール

名 称	目黒区めぐろパーシモンホール
所 在 地	東京都目黒区八雲一丁目1番1号
設 立	2002年
開館時間	9：00～22：00
休 館 日	年末年始（12月29日～1月3日）
管理手法	指定管理
管 理 者	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団
管理期間	2024年4月1日から2029年3月31日（5年間）
設 備	大ホール（1200名）、小ホール（200名）、リハーサル室、第1～3練習室、会議室、保育室、情報コーナー
外 観	  

③中目黒GTプラザホール

名 称	目黒区中目黒 GT プラザホール
所 在 地	東京都目黒区上目黒二丁目 1 番 3 号
設 立	2002 年
開館時間	9:00～22 : 00
休 館 日	年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
管理手法	指定管理
管 理 者	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団
管理期間	2024 年 4 月 1 日から 2029 年 3 月 31 日（5 年間）
設 備	多目的ホール（150 名）
外 観	

④区民センターホール

名 称	区民センターホール
所 在 地	東京都目黒区目黒二丁目 4 番 36 号（目黒区民センター内）
設 立	1974 年
開館時間	9 : 00～21 : 00
休 館 日	月曜日（祝日に当たる場合はその翌日）及び年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
管理手法	指定管理
管 理 者	株式会社コンベンションリンケージ
管理期間	2024 年 4 月 1 日から 2029 年 3 月 31 日（5 年間）
設 備	多目的ホール（417 名）
外 観	

(2) 美術館等

区営美術館として目黒区美術館があり、展示等を行う施設として、めぐろ歴史資料館等があります。また、区内には、民間及び都営の美術館等も複数立地しています。

目黒区営	東京都運営	民間運営
・目黒区美術館 ・目黒区美術館区民ギャラリー ・古民家（目黒区旧加藤家住宅 長屋門） ・めぐろ歴史資料館	・東京都写真美術館 ・日本近代文学館	・現代彫刻美術館 ・郷さくら美術館 東京 ・宮野古民家自然園 ・日本民藝館 ・目黒寄生虫館

※民間運営施設は、「目黒区くらしのガイド」に掲載されているものを抜粋しています。

(3) 文化財

国指定文化財（5件）、東京都指定文化財（16件）、目黒区指定文化財（36件）が存在しています。「目黒ばやし」のような無形民俗文化財もあり、地域の担い手により継承・保持されているものもあります。

文化財	分野	名 称
国指定文化財・重要文化財	建造物	尊経閣文庫、旧前田家本邸、円融寺本堂
	史跡	青木昆陽墓
	彫刻	木造釈迦如来立像
東京都指定文化財	建造物	旧崇源院霊屋宮殿、目黒雅叙園百段階段、瀧泉寺前不動堂
	彫刻	木造釈迦三尊及び五百羅漢等像、木造金剛力士像、木造阿弥陀如来像、木造祐天上人坐像
	歴史資料	文化四年永代橋崩落横死者供養塔及び石碑、大円寺石仏群
	旧跡	式亭三馬墓、祐天上人墓、三沢初子墓、松崎慊堂墓
	典籍・工芸品	紺紙金字法華経巻第三、般若心経、梵鐘
目黒区指定文化財	建造物	円融寺仁王門、旧栗山家長屋門、祐天寺仁王門、祐天寺阿弥陀堂、瀧泉寺勢至堂、海福寺四脚門、宮野家主屋
	絵画	絹本著色当麻曼荼羅図、絹本著色当麻曼荼羅図・祐天上人像、絹本著色阿弥陀三尊来迎図、絹本著色阿弥陀如来像（裏面 飛天散華図）
	彫刻	木造祐海上人坐像、木造不動明王及び両童子立像、木造阿弥陀三尊像、木造十一面観音立像、銅造役の行者倚像、銅造大日如来坐像、木造三宝尊像、木造文殊菩薩像・普賢菩薩像、木造弁才天及び十五童子像、木造阿弥陀如来立像、木造二天王立像
	歴史資料	円融寺板碑、行人坂敷石造道供養碑、目黒川架橋勢至菩薩石像、日源上人五重石塔、田道庚申塔群、五本木庚申塔群、鉄飛坂庚申塔群、海難供養碑
	工芸品	梵鐘
	典籍	普寂徳門自筆仏典注釈書
	民俗芸能	目黒ばやし
	史跡	宮野家屋敷

(4) 催事・イベント

芸術文化に触れることができる区内の催事やイベントとして、目黒区民まつりや区展（目黒区民作品展）等の他にも盆踊りや住区まつりが開催されています。

① MDC(メグロダンスコネクション)

概要	様々な可能性を持つダンスをテーマとし、子どもから大人まで多くの区民にダンスに触れる機会を提供するイベント。区内事業者協力のもと、ホールステージでのダンスパフォーマンスやダンスワークショップ等のダンスコンテンツの提供や、キッチンカーの出店等を通じて、「人が集い活力あふれるまち」の実現を目指していく。
開催時期	毎年1月～3月頃
開催場所	めぐろパーシモンホール



② 目黒区民まつり（目黒のSUNまつり）

概要	落語「目黒のさんま」にちなんだおまつりで、目黒区と友好都市である気仙沼市から贈られる新鮮なさんまを、大分県産のカボスを添えてその場で焼いて食べる。各会場では子ども向けのイベントや落語、物産展等が開催されるため、終日楽しめるおまつりとなっている。
開催時期	毎年10月頃
開催場所	田道広場公園、目黒区民センター、田道小学校



③ 区展（目黒区民作品展）

概要	区民の日（10月1日）制定を記念し、昭和52年から開催されている。気軽に参加できる作品展で、毎年多く作品が寄せられ、出品者や入館者が交流をしている。
開催時期	毎年9月頃
開催場所	目黒区美術館



④ めぐろ国際交流フェスティバル

概要	外国人と日本人の共生のため互いの文化を理解し合い交流することを目的に開催する国際交流イベント。目黒区における国際交流の拠点として、地域のボランティアや留学生、大使館等の協力を得ながら、日本と世界の様々な文化を見学・体験することができる。
開催時期	毎年2月頃
開催場所	めぐろパーシモンホール大ホール、めぐろ区民キャンパス公園



⑤ 目黒区商工まつり（目黒リバーサイドフェスティバル）

概要	区内企業の製品の展示販売、ホールイベント、交流市町村産地直送品販売、模擬店、ワークショップ、スタンプラリー等を通じて、地域産業の振興と地域の輪を広げる機会を創出するおまつり。
開催時期	毎年 11 月頃
開催場所	目黒区民センター



⑥ めぐろオータムアート

概要	めぐろオータムアートは音楽・美術・建築を通して、観る・聴く・知る・創る等五感から様々な芸術文化に触れることができるイベント。目黒区と公益財団法人目黒区芸術文化振興財団が協力し、毎年秋に、区内各地で楽しく芸術に触れることのできる企画や催し物を開催。
開催時期	毎年 10 月～12 月頃
開催場所	東京大学駒場 I キャンパス、東京大学駒場博物館、目黒区美術館、旧前田家本邸洋館 等



⑦ 目黒区文化祭

概要	目黒区内の芸術文化活動と地域社会の活性化を図るとともに、活動団体の連携・協力を深めることを目的に、昭和 40 年に 17 団体の加盟にて発足。
開催時期	毎年春季（4～6 月）・秋季（10 月～11 月）
開催場所	めぐろパーシモンホール 目黒区美術館 区民ギャラリー 等



⑧ 中目黒夏まつり

概要	地元の商店街が主催する、半世紀以上の歴史がある目黒区の夏の風物詩。お囃子や個性豊かでリズムカルな踊りが印象的な「阿波踊り」と、工夫を凝らした衣装やダイナミックで多彩な振り付けが魅力的な「よさこい」は、実際に目の当たりにするとその世界観に引き込まれ、魅了される。
開催時期	毎年 7 月～8 月頃
開催場所	中目黒駅周辺、目黒銀座商店街、目黒川周辺エリア



出典：Let's Enjoy Tokyo ウェブサイト

⑨ 自由が丘女神まつり

概要	昭和 36 年に自由が丘駅前広場に建てられた「蒼穹（あをそら）の像（通称：女神像）」にちなんで、昭和 48 年から始まったおまつり。自由が丘の街のいたる場所で、大人から子どもまで、見て、聴いて、食べて、飲んで、遊んで楽しめる様々な催しが行われるのが特徴。
開催時期	毎年 10 月頃
開催場所	東京・目黒区の自由が丘エリア



（５）文化活動を推進する主な団体

①公益財団法人目黒区芸術文化振興財団

公益財団法人目黒区芸術文化振興財団は、文化ホールでの鑑賞事業、美術館での展覧会、各施設でのアウトリーチプログラム、ワークショップ等の事業を実施し、地域において身近に芸術文化に触れる機会を提供しています。

財団の前身である財団法人目黒区芸術文化振興財団は、昭和 62 年 10 月の美術館建設を機に、区の芸術文化の振興を図り、地域社会の発展向上に寄与する目的で設立されました。

指定管理者制度の導入や公益財団法人への移行（平成 23 年 4 月）を経て、現在まで「めぐろパーシモンホール」、「中目黒 G T プラザホール」及び「目黒区美術館」の管理運営を担う団体となっています。

事業に関しては、目黒区の芸術文化の拠点となる「めぐろパーシモンホール」、「中目黒 G T プラザホール」、「目黒区美術館」での様々な舞台芸術及び美術に関する事業を行うとともに、地域との連携を図りながら目黒区における芸術文化の振興・発展向上に貢献しています。

②文化団体連合会

文化団体連合会は、目黒区、公益財団法人目黒区芸術文化振興財団と共に「目黒区文化祭」を主催しています。令和 7 年現在、登録団体数は 13 団体となっており、下記の団体で構成されています。

団体名	
①目黒区舞踊連盟	⑧目黒区自主グループ協会
②目黒区合唱連盟	⑨NPO 法人目黒ユネスコ協会
③目黒区民踊舞踊協会	⑩目黒謡曲五流愛好会
④目黒区華道茶道連盟	⑪目黒区民謡連合会
⑤目黒区邦楽連盟	⑫目黒区演劇連盟
⑥目黒区洋舞家連盟	⑬目黒区音楽協会
⑦目黒区吟剣詩舞道連盟	

③目黒区芸術文化活動団体

目黒区には、目黒区芸術文化活動団体が、100 団体以上あり、区内の文化施設で活動を行っています。

団体は、（１）音楽を主とする活動、（２）舞台芸術（演劇・舞踊・朗読等）を主とする活動、（３）メディア芸術（映像・コンピュータグラフィックス等）を主とする活動、（４）伝統芸能（邦楽・謡曲等）を主とする活動、（５）美術等の発表を行う活動団体であり、２年以上の継続した活動実績、構成員が５人以上等の要件を備えていれば、目黒区芸術文化活動団体として登録することができます。

（６）区と連携する団体

①公民連携プラットフォーム

芸術文化に限らず、様々な業種や分野のステークホルダー（利害関係者）と関わる場として、目黒区は様々な業種や分野のステークホルダーとパートナーシップを深める場として、「目黒区公民連携プラットフォーム」を設置しています。

プラットフォームでは、行政も含めた会員同士がフラットな立場で意見交換し、新たな取組のアイデアや連携のきっかけを生み出す会議である「セッション」を定期開催しています。

過去開催したセッションでは、区と東京音楽大学との社会連携や、活動実績について報告しました。また、プラットフォームを活用して会員同士が連携して事業・イベントを行う方法に関する意見交換等を行っています。

公民連携プラットフォーム参加会員（令和 7 年 3 月現在）

イオン株式会社／株式会社セブン-イレブン・ジャパン／東京科学大学／東邦大学／東京医療保健大学／東京音楽大学／東京大学／大塚製薬株式会社／第一生命保険株式会社／明治安田生命保険相互会社／日本生命保険相互会社／サッポロビール株式会社／東急株式会社／目黒信用金庫／城南信用金庫／公益財団法人北野生涯教育振興会／一般社団法人ナカメエリアマネジメント／株式会社ジェイ・スピリット／東京商工会議所目黒支部／目黒区商店街連合会／目黒区産業連合会

②東京音楽大学

東京音楽大学は、平成 31 年 4 月、目黒区上目黒一丁目に「中目黒・代官山キャンパス」を開校し、これまで講座・イベントの開催等、音楽分野を中心に目黒区と相互に協力してきました。この関係を基礎としながら、連携・協力を深め広げる体制をつくるため、基本協定を締結しています。

現在までに、音楽史や楽器の演奏ワークショップ等の様々な講座を開催しています。



（７）その他の主な任意団体

①メグロアソビ冒険隊

メグロアソビ冒険隊は、ワークショッププログラムを企画・運営する任意団体として、2016年に設立された。

目黒区美術館をはじめとする様々な企業・団体と共に、取組を行っている。

「すべてを“あそび”と捉えて冒険する」をコンセプトに、目黒区美術館においては、年に2回、家ではできないダイナミックなワークショップを実施している。



© Meguro Museum of Art, Tokyo, photo: Sumiko Okagawa

②ナカメエリアマネジメント

中目黒駅周辺地区街づくり協議会を母体として設立された一般社団法人。

まちへの思いや誇りを「なかめスタイル」とネーミングし、中目黒の環境美化、出会いにつながり、文化・賑わい創出を目指し、様々な立場の人たちが一体となってまちづくり活動を進めている。

地元企業とも連携・協力しながら、目黒川船入場（愛称：フナイリバ）の利活用や桜開花時のごみ削減等の取組を行っている。



2 芸術文化に関する意識調査結果

芸術文化振興プラン改定にあたり、区民の芸術文化に対する意見や希望等を把握するため、令和6年8月から9月にかけて「芸術文化に関する意識調査」を実施しました。

(1) 調査の概要

芸術文化に対する区民の関心や行動の実態を把握し、「めぐろ芸術文化振興プラン」の改定の基礎資料とするため、目黒区では区内在住の16歳以上の住民3,000人を対象にアンケート調査を実施しました。調査は郵送配布により行い、郵送またはウェブでの回答回収としました。

調査期間は令和6年8月19日から9月9日までで、755件（紙面516件、ウェブ239件）の回答があり、回収率は25.2%となりました。

平成26年にも同様の調査（前回調査）を実施しています。前回調査と比較可能な主要項目のうち、鑑賞経験（現地及びメディア）の割合については、前回調査の数値から一定の増加が見られました。

一方、実践よりも鑑賞を重視する評価、区内施設よりも区外施設を利用する傾向等は前回と大きな差はありませんでした。

(2) 結果の概要

①芸術文化を身近に感じる機会

芸術文化を「身近に感じ、触れる機会が多い」とする設問では、「あまりそう思わない」が41.3%と最も多く、「ややそう思う」が33.8%となりました。区民の多くが芸術文化を日常的に感じるには至っていない現状が伺えます。

②鑑賞や体験の実施状況

過去1年間で、芸術文化イベントを美術館やホール等で「現地で鑑賞した」と回答した区民は75.3%でしたが、「魅力的な公演や展覧会等がない」「公演や展覧会等の情報が入手できない」といった理由で鑑賞していない方も一定数存在しました。

また、同期間に創作や演奏等の実践活動を行った区民は39.5%であり、活動しなかった理由には「仕事や学業等で時間が取れない」「関心がない」との回答が多く見られました。

③メディアを通じた鑑賞や活動

芸術文化イベントをテレビ、ラジオ、CD、DVD、インターネット等で鑑賞した経験は78.6%で、非対面型の鑑賞が多く行われていることが分かりました。

一方で、インターネットを用いた創作活動等の実践については、経験者は20.2%となっており、能動的な参加には課題があると考えられます。

④区民が親しんでいるジャンルや施設

よく親しんでいる芸術文化のジャンルとしては、「映画（アニメーションを除く）」が55.8%と最も多く、次いで「美術」51.8%、「ポップス・ロック・ジャズ、歌謡曲、演歌、民族音楽等」51.6%となっています。

芸術文化活動によく出かける場所としては、「他の区市町村の公共施設」や「他の区区市町村の民間施設」が50%を超えており、一方で「目黒区の公共施設」は25.8%となっています。

⑤子どもの体験機会の必要性

子どもの芸術文化活動の必要性については、「鑑賞する体験」が8.59点、「実践する体験」が8.43点（10点満点）であり、関心があることが見受けられます。回答者本人を対象とした場合も、「鑑賞」8.47点、「実践」7.92点となっており、全年代を通じて芸術文化に触れる体験の必要性が認識されていると考えられます。

⑥寄付や支援への関心

芸術文化活動に対するクラウドファンディング等を含む寄付について、「したことがある」区民は16.4%、「今後してみたい」は33.3%となりました。「今後もしたいと思わない」という回答は29.2%でした。

⑦情報の入手方法と課題

芸術文化に関する情報は、「区報・チラシ」や「目黒区のウェブサイト」からの入手が多く、年代によってはInstagramや新聞・雑誌の利用も見られました。情報の入手に関する自由記述では、「何が行われているのか分からない」「もっと情報がほしい」というような意見が複数寄せられており、情報発信の充実が求められています。

⑧地域活動・文化縁に対する意識

住んでいる地域で行いたい活動としては、「地域で行われるイベントやおまつりへの参加」や「著名な芸術家による専門的な作品鑑賞」「気軽に参加できる公演・展覧会の鑑賞」等が挙げられました。

また、「文化縁」を広げていくために今後つながりを持つことが望ましい対象として、「子育て・保育・子どもと教育」「環境・まちづくり」が挙げられており、芸術文化と他分野との連携によるまちづくりへの期待が示されています。

⑨満足度と重要度のギャップ

本調査では、目黒区の芸術文化の各施策における「満足度」及び「重要度」を1点～5点で聞きました。

満足度に比して重要度が高かった施策として、「鑑賞・創造・参加の機会の充実」「子どもから高齢者までの芸術文化活動支援」「伝統文化との出会いの充実」が挙げられました。こうした分野は、今後の施策推進における重点分野とする必要があります。

3 小学生・中学生アンケート

芸術文化振興プランの改定にあたり、将来の担い手となる子どもたちが芸術文化にどのように触れ、どのような関心を持っているのかを把握するため、令和6年7月から9月にかけて、区内の小学生・中学生を対象としたアンケート調査を実施しました。

(1) 調査の概要

令和6年度に、区内の小学校5・6年生（約3,300人）および中学校1～3年生（約2,700人）を対象として、タブレット端末を用いたウェブアンケートを実施しました。

調査期間は令和6年7月10日から9月1日までで、507件の回答があり、回収率は約8%でした。

(2) 結果の概要

①鑑賞や活動の経験

現地での鑑賞経験が最も多かったのは「映画」（94.5%）で、次いで「演劇（現代劇、ミュージカル、人形劇等）」、「音楽（管弦楽、吹奏楽、オペラ、歌謡曲、ポップス、ロック、ジャズ、合唱等）」、「美術（絵画、書道、彫刻、工芸、陶芸、写真を見る等）」がそれぞれ50%前後となりました。

芸術文化に関する活動や体験では、「地域のおまつりに参加する」が53.5%で最も多く、「音楽」が25.0%、「美術」が24.5%と続いています。地域行事が子どもたちにとって主要な体験の場である一方で、芸術文化に継続的に関わる機会が限られていることが読み取れます。

②関心・希望

「今後してみたい鑑賞や活動・習い事」としては、「映画」が36.1%で最も多くなっています。一方で、「鑑賞したいものはない／習い事・活動をしたいものはない」とする回答は22.7%と、一定数の無関心層の存在が確認されました。

こうした結果から、家庭や学校等で芸術文化に触れる機会があっても、必ずしも関心につながっていない実態が伺えます。今後は、興味や関心を引き出すきっかけづくりや、多様な体験の場の整備が求められます。

③情報の入手と鑑賞手段

芸術文化の鑑賞や活動の情報入手については、「親や家族から誘われた」が53.1%と最多で、「友人から誘われた」（30.8%）、「学校配布のチラシ等を見て申し込んだ」（26.6%）と続いています。多くの子どもが保護者等身近な人の影響を受けて芸術文化に触れている一方で、自ら主体的に選んで関わる機会は限られていると考えられます。今後は、子ども自身に届く情報提供のあり方が課題となります。

また、インターネットを介した鑑賞手段としては、「YouTube」が76.3%と最も多く、次いで「動画配信サイト」（46.8%）、「SNS」（28.6%）が続いており、デジタルメディアが重要な接点となっていることが分かります。

4 芸術文化に関わる団体等へのヒアリング調査等

○文化施設を中心に活動する団体

公益財団法人目黒区芸術文化振興財団では、普及事業としてアウトリーチ活動や各種ワークショップの実施をはじめ、子どもから高齢者までを対象とした幅広い世代への接点づくりに力を入れています。特に、近年は子育て世代や外出に不安を抱える層にも配慮し、在宅でも芸術文化に触れることができる事業の展開や気軽に参加できる場の提供を創出する等の取組を推進しています。

また、SNS の活用やレクチャー・体験型プログラムの充実にも注力しており、区民の関心と参加意欲を高める工夫が随所に見られます。さらに、地域でのイベントに参画し、文化ホールを活用するほか、区内美術団体の展覧会の開催を支援する等、地域との交流にも力を注いでいます。

○区内で芸術活動を行う団体

文化団体連合会では、加盟団体の多くが構成員の減少や高齢化、広報・PR の手法の確立といった課題を抱えています。新型コロナウイルス感染症の影響により活動の継続が困難になった団体もあり、かつてより担い手の世代交代が進みにくい状況にあります。今後力を入れたい取組としては、「活動内容や発表機会の充実」、「活動の周知・集客の強化」、「若年層の団員の拡大」、「役員等への若手登用」、「子どもたちへの文化芸術の普及・教育」が多く挙げられており、さらに「他団体との連携の強化」にも期待が寄せられています。

芸術文化活動団体では、練習・展示場所や演奏会場の確保に対するニーズが最も高く、次いで「構成員の減少と高齢化」「活動経費の確保」といった運営基盤に関する課題が目立っています。広報活動や参加者募集においても課題を抱える団体が多く、情報発信の工夫が求められています。今後注力したい点としては、「広報活動や参加者募集に SNS 等のインターネットの活用」、「活動内容や発表機会の充実」、「活動の周知・集客」、「他団体等との連携の強化」、「子どもたちへの文化芸術の普及・教育」が挙げられています。

○多様な場で活動する団体

自由が丘アート委員会では、地域に根ざした芸術文化活動として、地元の子どもたちを対象としたアートワークショップの開催や、若手アーティストの自由が丘地区でのイベント参加を通じた表現機会の提供に取り組んでいます。また、商店街や公共空間を活用しながら、日常の延長線上で芸術文化と出会う場づくりを意識した活動が行われています。

一方で、活動のさらなる展開にあたっては、公共空間の活用や区立小学校との連携といった実施環境の整備が重要な課題とされており、区役所および教育委員会との実務的な連携体制が十分に機能していないとの意見もありました。

活動の発信についても、オンライン媒体だけではない形の広報にも力を入れたいという意向もあり、ターゲットに応じた広報手段の多様化も求められています。

○障害者関係団体

障害者関係団体として、障害者団体懇話会の構成団体 10 団体に対してヒアリングを実施しました。

芸術文化活動について、個人が未参加または団体が未実施の理由としては、「介助者がいない」、「関心がない」が最多であり、「魅力的な創作や体験活動がない」、「バリアフリーに対応した施設や行事がない」といった意見も見受けられました。

今後の新たな芸術文化活動について、「行いたいの実現が難しい」とする団体が複数あり、日常業務との兼ね合いや、自主企画が困難であることが挙げられています。こうした状況から、障害者団体に対する活動支援や環境整備の必要性が示唆されます。

また、芸術文化に関わる様々な団体や施設との連携を望む声がありました。活動支援の充実に加えて、障害者が情報にアクセスできる環境の整備が前提として求められています。

○外国人関係団体

公益財団法人目黒区国際交流協会では、現在、茶道・華道・弓道・和菓子講座等の日本文化体験を通じて相互理解を進める活動を展開しています。

今後、外国人住民の増加を見据えて、外国人個人へのアプローチにとどまらず、多文化共生社会における目黒区の芸術文化のあり方を検討していく必要があるという意見がありました。

また、外国籍の子どもたちに対しては、言語や文化的背景の違いによる孤立感や居場所の不足が課題とされており、芸術文化イベントへの参加機会の創出に取り組んでいくことが求められています。

○東京音楽大学

東京音楽大学（中目黒・代官山キャンパス）は、区内の音楽系高等教育機関として、専門的な人材育成を担うと同時に、地域との接点を意識した活動も行っています。これまで、目黒区からの依頼を受けて区民向けの演奏会を実施したほか、目黒区との連携講座の開催や、パーシモンホール主催の「めぐろで第九」に参加する等、大学の教育資源を生かした地域貢献に取り組んできました。

これから、区内における大学の認知度を更に高めるとともに、地域資源としての位置づけやブランド形成が必要であると認識しています。

5 前計画の実績と評価

平成 28 年に改定された「めぐろ芸術文化振興プラン（平成 28～令和 7 年度）」は、10 年間で計画期間とし、区は区民、団体、教育機関、企業等と連携・協力しながら、地域における芸術文化の振興を図ってきました。

（１）達成状況

前計画では、3つの目標のもと 54 の推進施策が掲げられ、令和 4 年度末時点における 129 事業の実施状況を評価したところ、A 評価（目標以上の取組）28.7%、B 評価（計画通りの取組）42.6%と、全体の約 7 割が一定の成果を上げており、着実な取組が進められていることが確認されました。

一方で、C 評価（一部のみ実施）10.1%、D 評価（未実施）19.4%となっており、実施に至らなかった事業も一定数存在します。

（２）目標に関する成果と課題

目標 1「芸術文化への多彩なアプローチづくり」では、講座やワークショップ、伝統芸能体験、子ども向けの音楽祭や展覧会等を通じて、文化施設によるアウトリーチ事業や施設見学も実施されました。

これらの取組は、多様な年齢層や場所で鑑賞・創造・参加の機会が拡充され、幅広い区民が芸術文化に触れることができるようになる重要なものであり、事業の安定した継続又は展開場所の拡充等が求められています。

目標 2「芸術文化活動への支援」では、障がいのある人の展覧会開催や施設運営の工夫、親子向けの事業等、誰もが参加しやすい環境整備が進められました。高齢者による活動支援や、日常生活と両立しやすい時間帯での事業も実施されており、社会包摂の観点からも、これらの取組は一層の充実が求められています。

目標 3「ネットワークの充実」では、若手や区ゆかりの芸術家の紹介、文化財を活用した事業等が進められており、区民の地域への誇りや愛着の醸成につながっています。今後も区民が地域の歴史や文化を学ぶ機会を提供するためにも継続的な実施が求められています。

一方で、観光、国際交流、ボランティア団体との連携については、庁内外のネットワーク形成が十分に進まなかったことから、関係部門との連携体制や関係者間の情報共有の仕組みが課題となっています。今後は、庁内の横断的な連携の推進や、関係者による協議の場の設置を通じて、連携体制の強化を図る必要があります。

6 区の芸術文化を取り巻く課題

(1) 芸術文化に触れる機会の拡充

区民意識調査の結果では、芸術文化に対して「鑑賞体験」を重視する傾向が明らかとなりました。一方で、自ら創作・演奏・参加する「実践体験」の機会は限定的であり、その背景には時間の制約や関心の薄さがあると考えられます。また、小・中学生アンケートでも映画等の鑑賞は多いものの、能動的な芸術文化活動への参加は限定的です。

今後は、文化施設における事業実施にとどまらず、住民参画を促す企画立案や仕組みの整備、くらしの中で芸術文化に親しめる場の拡充が求められます。区内の文化施設や地域資源を最大限に活用し、鑑賞と実践の両面で区民の多様なニーズに応える取組の展開が必要です。

(2) 情報発信の強化

区や芸術文化に関わる団体では、区報、SNS、掲示板等を通じた情報発信が行われていますが、区民意識調査結果からは「情報が届かない」「関心を持つきっかけがない」といった課題も浮き彫りになっています。特に若年層ではSNSを情報源とする傾向が強く、また高齢層では新聞や区報への依存が高い等、年齢層によって受信手段が大きく異なります。今後は、媒体横断的な広報体制の整備と、アクセスしやすい情報提供手段の確保が必要です。

また、芸術文化活動団体等からは広報手段の確保に関する支援要望も寄せられており、誰もが必要な情報にアクセスできる仕組みや多層的な情報発信体制の整備が必要です。

(3) 多様性と包摂性の確保

芸術文化の振興に当たっては、障害のある人や外国籍の区民等、多様な背景を持つ人々が芸術文化に触れ、参加する環境づくりが求められています。障害者団体等からは、芸術文化活動への参加に当たり、介助者の不在やバリアフリーに対応した施設・イベント内容で開催されていないこと等が障壁となっているとの意見がありました。また、障害種別に関わらずイベントを楽しむことができるよう、情報保障の取組についても求められています。また、「障がいのあるアーティストによる作品展」のように、美術館等と連携して実施する取組を通じて、障害の有無に関わらない共生社会の実現を目指す姿勢が一層求められています。

外国籍の子どもたちに対しては、言語や文化的背景の違いから孤立感や居場所の不足が課題とされており、イベントへの参加機会を通じた誰も取り残さない地域づくりが重要です。

これらを実現するためには、教育、福祉、地域団体等との連携による実効性のある支援体制の構築が求められています。

（４）活動支援と次世代への継承

芸術文化活動団体の高齢化や構成員の減少が進行する中、継続的な活動の維持と発展のための支援が必要となっています。団体からは、発表機会や活動場所の確保、広報・集客への協力、人材募集の支援等、具体的な要望が多く挙げられています。

また、若手アーティストや伝統文化の次世代の担い手を育てる仕組みも必要です。区内で活動を行う団体への支援や地域とつながる機会の創出等、地域密着型の人材育成の仕組みの整備が求められています。

文化施設以外のまちなかで活動を行う団体からは、駅前広場や商店街等の公共空間を活用し、気軽に芸術文化に触れられる機会を創出することが、担い手の活動意欲の向上や新たな担い手の発掘につながるとの意見がありました。こうした視点も取り入れ、文化施設にとどまらない多様な活動展開の促進が求められています。

（５）地域の文化活動の連携強化

区民意識調査では、「地域で行われるイベントやおまつりへの参加」に対する関心が特に若年層で高く、小中学生の芸術文化に関する活動や体験としても「地域のおまつりに参加する」が最多であることから、地域行事が子どもたちにとって重要な文化体験の場であることがわかります。一方で、地域における文化活動は、担い手の不足や連携の仕組みの未整備等により、十分に展開されているとは言えません。

将来の芸術文化の担い手となる子どもたちが、身近な地域で芸術文化に触れることができるよう、地域イベントの中に様々な文化体験を積極的に取り入れることが有効です。

また、団体ヒアリングでは、区内の芸術文化活動団体同士や庁内各課の連携強化に加え、福祉・観光・産業等の分野を超えた協働体制への期待も示されており、地域を基盤としたネットワークづくりが重要となっています。加えて、そこにボランティアや市民が主体的に関わることで、地域に根ざした多様な視点や力が加わり、ネットワークの質を一層高めていくことが期待されています。